学協会における安全への取組み特集号

「学協会における安全への取組み」特集にあたって

土橋　律†

特定非営利活動法人（NPO） 安全工学会（以下，安全工学会）は，かねてより幹事学会の一つとして，日本学術会議主催「安全工学シンポジウム」の運営に協力してきました．2010年7月には，記念すべき第40回目の「安全工学シンポジウム2010」の幹事学会として，シンポジウム運営を担当いたしました．

安全工学誌編集委員会では，2010年，第49巻の特集号の企画立案にあたり，「安全工学シンポジウム2010」のテーマである「安全知の統合に向けて」に着目し，同シンポジウムの共催，協賛学協会を中心に，各学協会の安全に関する活動内容から各学協会が持つ「安全知」をお互いに理解し，その統合に向けた活動の一助となるべく，「学協会における安全への取組み」と題した特集号を組むことにいたしました．

安全知の統合については，前述した安全工学シンポジウムを始め，様々なところで論じられてきているところですが，ここに少し書かせていただきます．安全・安心な社会の実現には，様々な危険や不安の原因となる事象が社会に与える影響の最小化が求められます．この影響の最小化のためには，多岐にわたる個々の危険・不安事象の検討と最小化手法・技術の開発が必要となりますが，これには様々な学術・技術の専門分野の知識が必要となります．さらに，これらの事象が人間，社会などに影響を及ぼす過程は，自然科学のみならず自然科学と人間社会との相互作用に関する考察も必要となってきます．このように，安全・安心な社会の実現には，広い分野にわたる知の結集が不可欠となります．単に知識や情報を集めるだけではなく，それらを融合して機能するように統合しなければなりません．このような安全知の統合に向けて，各学協会にどのような安全知があるかについて特集号としてまとめ，相互理解を深め，統合を円滑に進める一助となることを考えて特集号を企画した次第です．

今回は，各分野にわたる安全への取組みをとらえるために様々な学協会の活動を紹介していただきましたが，企画を進めるなかで安全に関する活動における学協会の活動の重要性について改めて感じています．安全に対する取組みが必要なことは，各分野とも異論のないところですが，安全への取組みには総合的な視点が必要になることや，安全への取組みが技術開発や企業経営の実績評価に直接つながらないとみなされる場合もあるため，個々の企業や研究所だけで安全に取組むのは困難な場合も多いようです．そのため，学協会に安全関係の委員会や部会など結成し，そこを基点として複数の企業や研究所などが協力して活動することで，安全に関する取組みの推進が可能となっています．このような学協会の重要性にも考慮しながら特集を読んでいただければ幸いです．

本特集では，各学協会で安全関連の活動をご担当されておられる委員会や部会などのご担当の方々に，各学協会における安全への取組みについてご寄稿をお願いし，ご協力をいただきまして，本特集号の発行となりました．ご多忙な中，原稿作成いただいた方々に厚く御礼申し上げます．

本特集号が，「安全工学シンポジウム」と同様に，各学協会がお互いの「安全知」を理解し，その統合に向けた連携の可能性を探るきっかけとなり，将来の協働へと発展することを願っております．

† 東京大学：〒113-8656 文京区本郷7-3-1
E-mail：dobashi@chemsys.t.u-tokyo.ac.jp